

第2回 横浜市総合保健医療センター指定管理者選定評価委員会 議事録

日 時	平成 27 年 7 月 13 日 (月) 18:00~20:20
開催場所	横浜市総合保健医療センター 4 階 会議室
出席者	工藤委員長、浅川委員、戸高委員、藤原委員、沖野委員
欠席者	なし
開催形態	非公開
議 事	<p>1 プレゼンテーション</p> <p>横浜市総合保健医療財団が、事業計画書にもとづいて次期指定管理期間における事業内容について、プレゼンテーションを行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総合的な基本方針・達成目標 2 事業計画 3 職員配置・育成 4 施設の管理運営 <p>2 ヒアリング</p> <p>プレゼンテーションの内容に関するヒアリングを行った。</p> <p>(1) 総合的な基本方針・達成目標</p> <p>委 員：人材育成ビジョンは作成されているのか。</p> <p>申請者：今年度中に作成する。財団職員として必要な専門的知識について、体系的にまとめる予定である。</p> <p>委 員：安全について、この建物の耐震性は大丈夫なのか。職員の安全と利用者の安全を守らなければならない。</p> <p>また、認知症については情報が必要な所に届いていないのではないのか。パンフレットを戸別配付していくべきではないのか。</p> <p>申請者：建物が建てられてから 23 年経過しているが、東日本大震災の経験から、建物の躯体は強固であると考え。利用者の安全については避難訓練を行うとともに、職員については震度 5 強以上の地震があった際には、管理職が参集することとなっている。また、安全管理委員会を通して安全に関する取組を検討している。</p> <p>また、認知症については待っていても沢山患者が来る、という状態ではあるが、地域ケアプラザに赴いてアドバイスをを行う、という取組を行っている。正直、外来患者を診るだけで精一杯な面がある。</p> <p>個別に情報を伝える方法としては市の広報を利用したり、民生委員や区役所との連携を通して情報をつかみ、対処していく。</p> <p>委 員：健康寿命の延伸について取り組むとしているが、健康格差の是正についても取り組んでほしい。</p> <p>(2) 事業計画</p> <p>委 員：精神鑑定について、件数はどれくらいか。</p>

申請者：5年間で2件程度。

委員：もっと積極的に取り組んでもらいたい。

委員：医療観察法の対象者については、具体的にどのように対処しているのか。

申請者：生活訓練施設におけるショートステイを行っている。(年2～3件程度)
(補足：生活訓練施設における長期入所も行っている)

委員：もっと積極的に受け入れるべきではないか。

委員：「じりつ」という字が何故ひらがなで記載されているのか。

申請者：「自立」と「自律」両方の意味を持たせている。

委員：「地域作業所」という表記があるが、正しくは「地域活動支援センター」ではないか。

申請者：訂正する。

委員：ピア活動の推進についてはどのように進めているのか。

申請者：神奈川区の生活支援センターで研修等を進めている。

委員：利用者アンケート等によって、何か改善した点はあるか。

申請者：給食の不満など、日常的な内容のものが多い。

委員：利用者の意見・要望についてはまとめているのか。

申請者：記録してファイリングした上で、対応できるものについては対応し、利用者にフィードバックしている。

委員：結果についてはフィードバックをきちんとすることで、利用者とのコミュニケーションが図れる。

委員：(アンケートにおける)感謝の言葉は、職員の励みになると思う。

委員：職員の行動目標策定について、どのような流れになっているのか。

申請者：年度の初めに上司と相談しながら年間の目標を設定し、年度の終わりには振り返りを行う。管理職についても同様である。個人の目標が組織の目標と連動するようにしている。

委員：ヒヤリ・ハットの報告はされているのか。

申請者：大きな事故は無い。26年度は696件。

委員：今このような課題があるので、これからどうする、という視点が足りない。

委員：精神科デイケアについて、復職支援プログラムでは素晴らしい成果を上げているが、増加傾向が見られる発達障害の方については今後どのように対処していくのか。

申請者：2年程前から統合失調症、うつ病、発達障害の3つのコースに分類し、症状に合わせた対処をしている。

(3) 職員配置・育成

委員：専門職員の定着率はどうか。

申請者：正規職員の定着率が高いが、嘱託職員については（正規職員と比較すると）低い。

委員：継続的な雇用のモデルについて示すことも重要な役割である。

委員：聖マリアンナ医科大学で精神保健指定医に関する問題があったが、本施設は大丈夫か。

申請者：問題ない。

委員：外来患者は1日何名程度診ているのか。

申請者：20名程度。（補足：生活習慣病外来が20名程度、その他の外来を全て含めると80名程度）

委員：医師の数と比較して、だいぶ余裕があるように見える。

申請者：外来対応以外にも介護老人保健施設や診療所病床、地域精神保健に関する業務がある。患者の生活指導等で時間がかかるケースもある。

(4) 施設の管理・運営

委員：委託業務について、業者がきちんと業務をしているか確認できているか。

申請者：毎年入札を行い、最も安い価格の業者に依頼しているが、日々の業務について仕様通り行われているか、確認している。

委員：訪問看護ステーション事業について、29年度から収入も支出も増えているが、どういうことなのか。

申請者：訪問看護の件数を増やすことに加えて人員も増やす予定なので、収入と支出双方が増加している。

委員：25年度から26年度にかけて訪問看護ステーションの利用者数が大きく増えている。

申請者：利用の希望が多くやむを得ず断っていた状況であったため、26年度に常勤看護師を新たに1名採用し、人員を増やした。

委員：未収金についてはどうなっているのか。

申請者：期限より2か月過ぎた時点で督促を行っている。早期に着手するよう心掛けている。3年間経過し、債務者の所在が不明な場合は回収不能損失としている。

委員：横浜市総合保健医療センターは、横浜市のリーダー的施設である。研修事業やノウハウ、臨床実績について専門家に公開することで、学習の機会を提供してもらいたい。

申請者：社会福祉職の職員が外部から呼ばれて研修をすることや、学会発表等を行う事例はある。

3 採点

プレゼンテーション及びヒアリング、申請者から提出された申請書類を総合的に評価し、各委員による採点を行った。

	<p>4 審査及び指定候補者選定</p> <p>【審査】</p> <p>各委員より講評を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に一生懸命やろうとしていることは評価できるが、今後、新しい分野に取り組んでいこうという姿勢がもっと欲しい。特に安全対策については力を入れてもらいたい。この施設の使命には特徴があると思うので、それが市民に十分周知されるよう取り組んでもらいたい。 ・基本的にはしっかり運営されていると思う。一方で、チャレンジしようという部分が見えにくい。地域包括ケアや障害者の支援については、地域の（小規模）施設の方がアクティブに動いていると思う。本施設は市内でも重要なポジションにあると思うので、アウトリーチ（地域社会への奉仕活動）など積極的に進めてほしい。 ・地域にとって欠かせない存在になっていると思う。今後ますます必要とされていくと思うので、地域に根差した施設になってもらいたい。 ・この施設の役割は非常に大きいものだと思うので、市の一機関にとどまらない取組を期待する。 ・精神医療の分野で、非常に高いレベルの取組を行っている。マンパワーや資金も充実しているようなので、例えば医療観察保護についてもより積極的に取り組み、横浜の精神医療をリードして行ってもらいたい。 <p>【指定候補者選定】</p> <p>各委員の最終評価を集計した結果、横浜市総合保健医療センターの次期指定管理者の指定候補者として、公益財団法人横浜市総合保健医療財団を選定することに決定した。</p> <p>5 選定結果報告書について</p> <p>報告書案を審査内容をもとに事務局にて作成し、委員長が内容を確定する旨、決定した。</p>
資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1 第2回委員会の進め方について 2 採点用紙 3 採点基準 4 選定結果報告書（案）